

441 この世には、やろうとする者、やろうとしない者、できない者の3種類の人間がいる。
「やろうとする者」は何でもやり遂げ、「やろうとしない者」は何にでも反対し、
「できない者」は何事につけ失敗する。

442 魚を与えれば一日食える。魚の釣り方を教えれば一生食える。

443 止まない雨はない。通り過ぎない嵐はない。

444 神は耐えられぬほどの試練は与え給わない

445 今できることをやる勇氣。できないことについて、それを受け入れる
冷静さと忍耐。そして、それを識別する体力と知恵を我らに与え給え。

446 できない理由をあれこれ考える暇があったら、どうするかできるかを考えよ。

447 脱皮しないヘビは死ぬ

448 量は質に転嫁する。水の温度が上がってきて、ある所までくると一気に水蒸気に
変わって行く。場づくりも、ある時期に来ると自然にどっと広がる。

449 辛十一 = 幸。辛いことも、もう一步の努力で幸になる。

450 教育(エデュケーション)にはエデュカレ、引っ張り出すという意味がある。
つまり、人を教え育てることは、その人の持つ独自固有の長所を引出し、
やる気を起こさせること。

451 成功を収める組織、そして成功を収める経営者には3つの基本的な性格がある。
・焦点を絞り込んでいる
・実行面で秀でている。
・顔の見えるリーダーシップが隅々まで行渡っている。

452 世の中には4種類の人がある。
・動きを起す人
・動きに巻き込まれた人
・動きを見守る人
・動きが起こったこつら知らない人

453 密接距離 0~45cm 納得
個体距離 45cm~1m20cm 説得可能な距離
社会距離 1m20cm~3m60 説明を可能にする距離 記憶に残る位
公衆距離 3m60cm~ 報告 聞いたことがある位

454 人財、人材、人在、人罪
→使いようによっては役に立つし、使い方を誤ると役に立ってこない。

455 丸い月は1夜だけ

456 成功の鍵は責任である。自らに責任を持たせることである。
あらゆることが、そこから始まる。責任ある存在になるということは、真剣に
仕事に取り組むことであり、仕事にふさわしく成長を認識するということである。

457 自己啓発とは、能力を習得するだけでなく、人間として大きくなることである。
責任に重点を置くことによって、より大きな自分を見るようになる。
うぬぼれやプライドではない、誇りと自信である。一度身に着けてしまえば
失うことのない何かである。目指すべきは、外なる成長であり、内なる成長である。

458 成果をあげることは一つの習慣である。実践的な能力の積み重ねである。
実践的な能力は、習得することができる。それは単純である。

459 成果を上げるための5つの能力。
・第1に、何に自分の時間が取られているかを知り、残されたわずかな時間を体系的に管理する。
・第2に、外部の世界に対する貢献に焦点を合せる。
・第3に、強みを中心に据える。
・第4に、優先順位を決定し、優れた仕事に際立った成果を上げる領域に力を集中する。
・第5に、成果を上げるよう意思決定を行う。

- 460 仕事を生産的なものにするためには、成果すなわち仕事のアウトプットを中心に考えなければならない。技能や知識などインプットからスタートしてはならない。技能、知識は道具にすぎない。
- 461 効果的なリーダーシップの基礎とは、組織の使命感を考え抜き、それを目に見える形で明確に定義し、確立することである。リーダーとは、目標を定め、優先順位を定め、それを維持する者である。
- 462 厳しいプロは、高い目標を掲げそれを実現することを求める。誰が正しいではなく、何が正しいかを考える。頭の良さではなく、真摯さを大切にする。つまるところ、この真摯さに欠ける者は、いかに人好きで人助けがうまく、人付き合いが良く、有能で頭が良くとも、組織にとって危険であり、上司および紳士として不適切である。
- 463 サラリーマンにとって重要なのは、1つは発揮する力。これはスキルと言い換えることができる。2番目が非常に重要で、人に求められる能力、発揮する場を持っているということ。要するに、発揮してこそ能力である。認めてくれる人がいなくてはいけない。この意味で、これからは外部にも内部にも人のネットワークを持っていないといけない。3番目は、人間関係の中で仕事をするチーム力である。スペシャリストは個人プレーといっても、それはそれで、支えてくれる人がいなくては発揮できない。
- 464 それぞれの分野で「手応え」を感じて仕事に取り組む人は、有形・無形の運を掴めるようになる。この「手応え」の中に幸運の女神がじっと身を潜めているかのように。また、ものすごく自分の期待を裏切られたこと、こんなことがなければいいのにな、と思うことが、あとで意外なプラスの要因になっていることが多い。この場合、これが人生で一番大切なものに繋がっているかも知れないということを心に留めるべきだ。
- 465 手段が目的化すると人は停滞し、組織は衰退する
- 466 夢のない人生なんて、味のないチューインガムのような
- 467 新しい知識に到達するだけでなく、それを人々に公開することが学問にとって大切である。
- 468 この世で唯一越えられないハードルがある。それは自分で作った限界である。
- 469 人間は生まれながらの才能や素質がある。天分というものである。速く走る、遠く投げる、高く飛ぶ、こういう運動能力は素質に負うところ大と思う。しかし、仕事や勉強に関しては、素質や才能が余り寄与しない。あくまで意思の力が大きいと思う。意思とは「やるぞ」というパワーである。人間のエネルギーは、意思の力による。意思がなければエンジンもかからないし、ハンドルもままならない。
- 470 ・復習(いま、どんな時代かを言葉にする)
自分の係る市場や人々のライフスタイルをどう表現できるか。
「顕在」している物事を自分の言葉に置き換えていく。
- ・予習(これから、どんな時代になるかを言葉にする)
自分の係る分野でどんな動きが起こりつつあるか、何が大事になってきているか。
「潜在」している物事を自分の言葉で形にしていく。
- ・仮説(自分には何ができるかを言葉にする)
自分にはどんな武器があり、誰に対して何ができるか。自分の良いと判断したものは、誰に何を持たらし得るか。自分の「可能性」を言葉にする。
- 471 未来は行動の先にある。一つのドアは閉まっても、夢を持ち続ければ必ず別のドアが開く。
- 472 振り返るな、後には夢がない。ひきずる過去に未来はない。人生の扉はチャンスが来た時は思い切って押してみる。夜明け前が一番暗い。しかし、明けない夜はない。
- 473 考える労力を惜しむと、前に進むことを止めてしまうことになる。
- 474 ゴールを逆算して、何をなすべきかを考える。
- 475 「人生は階段である。誰かはのぼる、誰かはおりる。そして、慌てれば転げ落ちる。でも、踊り場があることを忘れるな。ここで休むか方向を変えるために。」

- 476 リーダーに必要な資質は、共有化できるビジョンを示せること。
そして、決してブレない軸を持っていること。
- 477 普通の人が晩成する道というのは、愚直なまでにこだわりを持ち続け、その上に
自分の能力を開花させる技術を実に付けることにつきる。
それは挫折という精神的な陣痛を経なければいけない。
- 478 事実の前に謙虚になれ。そして常に自分を変革する準備を備えておけ。
我々の周りは、常に変化している。
- 479 神様は絶対に無理な宿題は出さない。その人に与えられた宿題は、絶対にその人
自身がクリアできる。乗り越えようと思わなくても一歩ずつ進んで行けば、
いつの間にか乗り越えてしまっている。その時初めて自分に自信が持てる。
- 480 寒青(かんせい) 冬の松を表す。
木も草も枯れ果てているのに、松だけは青々と生きている。
一生のうちどんな厳しい中にあっても、自分はこの松のように青々と
そして生き活きとし、人を愛し信じ触れ合い楽しませるようにありたい。
- 481 「長の一念」
長として立つ人間の一念によってすべてが変わる。
- 482 「因果俱仁」
現在の果を知らんと欲すれば過去の因を見よ。
未来の果を知らんと欲すれば現在の因を見よ。
- 483 人間は自分の適性に仕事を合わせるより、仕事に合わせて適性を築いていく方が
遠回りに見えて実は得るものは大きい。
- 484 身に着いた力(仕事)は、どこまでも生きる。
ただし、筋力と同じで仕事もトレーニングを続けていないと次第に衰えて行く。
- 485 「相手は自分の鏡」である。相手の行為も自分のアプローチによって良くも悪くもなる。
自分自身を主張することによって、他人の注意を引くようにするな。
486 むしろ他人に対し自己犠牲を払い、また貢献するような立派な仕事をすれば、
自然と自らを主張することになるし、報いられることになる。
- 487 金は稼ぐことで手に入るが、失われた時間は戻らない。
- 488 意思決定は、仕事に落とし込まなければ、どのような意図と目的があろうとも決定とはならない。
- 三断三性
- 489 三断とは、判断力、決断力、断効力。すなわち、判断力は状況を的確に掴むこと。
決断力は、熟慮した後の潔さ。断行力とは、強い意志を持続すること。
また、三性とは、品性、知性、野生のこと。
これにはマニュアルはない。自ら努めて身に付けるしか方法はない。
品性は人柄の良さだけでなく、仁(思いやり)と義(公のために尽くす)心。
知性は人間としての教養。野生は開拓者の精神など。
- 490 人間は常に思索と行動という両輪によって走っている。
そして、それらを駆動させるのは「努力」というエンジン、「良識」というハンドル、
右足は「勇気」というアクセルと、時には同じ名のブレーキを踏む。
そして、左足はすべてが「分相応」に収まるようにクラッチを操作する。
これらの性能が、ことごとくバランスを保っていれば、人生の車はまっすぐ走り続ける。
決して慌てることはない。
- 491 人間は用事がなくなったら死ぬものだ。
生きているからには、生きねばならぬ理由がある。いわば天命とでもいうのかな。
- 492 成功の秘訣は、やる気と本気が大切。やる気という「木」に、なにくそという「肥料」を
かけて「水」をまくと、やがて芽が出て成長し実がなる。焦らずに本気で取り組んで
いれば、窮地は自ずと脱することができる。

- 493 難しいとは高度な技術ということではない。本来やるべきことを手を抜かずにやる。その一言に尽きる。この当たり前のことを365日繰り返すということが実に容易ではない。
- 494 いい失敗のルール
①失敗したら自分で直す ②同じ失敗は2度しない ③失敗を記録しておく
- 495 先生というのは、梵鐘みたいなものだ。
叩けばいい音が出るが、叩かなければ鳴らない。
だから、自分で求めて行って、どんどん鐘を鳴らすのだ。
- 496 「何苦楚」
人は「何」のために「苦」しむのか。それは「礎(楚)」を築くためだ。
- 497 He is a good sport.
彼は信頼に足る人物だ。という意味
スポーツマンシップ「尊重(respect)する」こと。フェアプレーの精神。
- 498 「知る」とは、それによって自分が変わること。自分を変えない知識には余り意味がない。
学ぶなら、自分が変わるまで学びなさい。世界を見ている自分が変われば世界が変わる。
その体験を一度でも知れば、知ることの意味を知る。
- 499 成功は、そう呼ばれた瞬間から陳腐化して行くものである。環境は絶えず変化しているのに、自他ともに成功事例の復習は無意味なのだ。

人間は精神的に「楽屋」を持っていないとダメだ。「心の楽屋」を。
- 500 成功をパターン化するな。
信長は同じ成功をしないようにしていた。それは大変な努力が必要なのだが。
成功した時こそ、そのパターンを踏襲しないように心掛けないと、新しいことが発見できないのだ。
- 501 どうすれば成功するかは、本当のところは分らないが、どういう失敗をしたかなら分る。
成功するには、失敗しなければならぬ。
- 502 中傷に対する唯一の反抗は、一生懸命働くことである。一度語る前に二度聞け。
- 503 金は良き召使い、悪しき主人。金は溜めるだけが金ではなく、使ってこそ金なのだが、良い金の後ろには常に良き人格があるが、悪い金の後ろには悪しき人格どころか無人格で金だけ独走する。
- 504 名もない星は宵から光りたがる。
- 505 勇気がある者だけに運を掴めるチャンスがある。
「求める強さ」物事を成し得たいという強い意志が大切。
- 506 いざというために、一応食べていけるだけの資産を残しておく。
何か言われた時に、じたばたしない身構えをしておく。
その恒産は人脈かもしれないし、金銭的な目標かもしれない。
- 507 「事前の一第、事後の百第」
早めに手を打てば「1第」でOK。事が起きてからは「百第」が必要。

ある「量」的なものが持続的に積み重なり臨界点を超えると「質」的なものに
508 転換する瞬間がある。大工や料理が駆け出しの頃に、よく刃物研ぎをさせられるが、
習得するまで場合によっては2年3年かかるものである。
遠回しに思えような修行でも、ある時ふと極意みたいなものを会得する瞬間が訪れる。
「量」から「質」に転換する瞬間だ。

努力は皆するんだよ。そこで止めたらドングリの背比べ。一歩抜きんでるためには
509 努力の上に辛抱という棒を立てるんだ。この棒に花が咲くんだよ。辛抱できない奴は
意気地なした。やるからには続けろ。
- 510 植物にも四季があるが如く、人生にも四季がある。

Freshな若者
511 Fightのある人 若い人も年取った人も

Responsibilityのある人 こんな人であって欲しい
Efficiencyの高い人 いつまでもfreshでいたい
Strategyに満ちた人
Heartを大切に作る人 仕事には無言の言葉が隠されている。

- リーダーに求められる2つの力。
512 1つは、「チームとして何を指して、どう行動するかについて、ビジョンを示して実行する力」もう1つは、「部下を育てたり、チーム力を上げるといったチームマネジメントする力」である。
前者をビジョンシップ(仕掛ける力)、後者をマネジメントシップ(仕組む力)と呼ぶ。
- 513 本当に結果を出すためには「結果より変化」の発想が大切だ。
- 514 仕事は十人のうち二、三人が賛成する時に始めなければいけない。一人も賛成者がいない時は早すぎる。だが、五人も賛成するような時は着手にも既に手遅れだ。
- 515 可能性とは、全ての人にあるものではない。追及する人だけに与えられる成果である。
- 516 アイデアとは、特殊な人に与えられる能力ではない。真剣に物事を考える人に与えられるご褒美のようなものである。
- 517 まず尊敬できる心を持つこと。そして、尊敬される人になること。
- 518 幸福とは、人伝えにやって来る。だから、人を大切にできない人には決して幸福は訪れない。
人は目的なしに行動しない。理なくして協調しない。従って、常に理のかなう行動を心掛けること。
- 519 過去は振り返っても意味がない。変えられるのは未来だけ。
人生に成功は約束されていない。でも、成長は約束されている。
- 520 本当に優秀な人というのは、たとえどんな底にあっても、「これではいけない」と自らを鼓舞してさらに勉強に励む人である。
- 521 ナイトサイエンス
昼間の科学(デイ・サイエンス)が論理とか知識とするなら、直観や感性が夜の科学です。
- 522 人生で大切にしていることを実行するためには、毎日の小さなことの積み重ねが大切になってくる。そこで、日々心掛けること
・感謝の気持ち
・真っ直ぐに生きる
・常に全力
・なるべく笑顔
・前向きである
・実体験を大事にする
- 523 水は100℃にならないと沸騰しない。100℃になるためには、冷たい水を火にかけ20℃、50℃と徐々に温めていかねければならない。
「読み書き」も同じです。(基礎練習が大事です) 色々な部品を磨き上げて行くことで次第次第に温度は上がって行く。そして、いよいよ90℃になって、あと一息頑張れば火を燃やせば100℃になって沸騰する。ここで、あと残りいくつかの部品を磨き上げる。
あるいは、部品全体に最後のひと磨きをかける。そこで100℃になる。
(しかし、せっかくなら90℃まで来ているのに、そこで諦めてしまう人が何と多いことか)
- 524 自分の「立ち位置」を考えて見ることも、部品みがきに精を出し、自分を沸騰させる秘訣でしょう。
- 525 「もの知り博士」とはモノを知っている意味では賞賛の言葉だが、その人が人物として優れているかは別の話です。これに対して、「教養のある人」という言葉には、知識があるだけでなく、その知識を生かしたプラスアルファを持っているという評価が込められている。
- 526 桃栗3年、柿8年。芸人8年、商売10年、それでもだめなら20年。まだまだあるさ25年。
- 527 基本は「あいさつ」「返事」「後始末」がきちんとできること。(準備と後片付け)
- 528 相手の立場に自分を置き換えたものの見方、考え方をすることが大切。

こちらが悪ければ、悪い人が寄ってくる。こちらが信用することによって信用される人間が生まれる。

529 現在、この瞬間は過去であり、未来でもある訳だが、過去の蓄積が未来に役立てられるものでなければ、それは「知っている」という名のお荷物であり、極端にいうならその人の現在並びに未来を毒する亡霊なのである。こやしにならない過去なら捨てた方がいい。

自分を成長させる3つの約束

- 530 ①当り前のことを言い訳にはいけない
②欲張り過ぎてはいけない
③チャレンジし続ける心を持つ

531 「叶う」に欲張って「一」を足すと「吐く」に変わる。
夢を「叶える」か「吐く」か、欲張り過ぎは間違いの始まり。

オアシスの心

- 533 「おはよう」という明るい心
「ありがとう」という感謝の心
私が「します」という積極推進の心
「すみません」という反省の心

534 「新」とは、古い立ち木を斧で切り倒すことである。そこに芽が出る。

匠の技と伝承(三訓)

- 535 1.技術を伝える「匠」になろう 研ぎ澄まされた斧(技)を直ぐ
2.後輩を育てる「匠」になろう 取り出せるように蓋がない
3.信頼と価値ある「匠」になろう

536 咲けない時は、無理に咲かなくても良い。その代わりに、根を下へ下へと降ろして根を張る。次に咲く花が、より大きくて美しいものとなるために。

537 どんなところに置かれても、花を咲く心を持ち続けよう。境遇を選ぶことはできないが、生き方を選ぶことはできる。「現在」という、かけがえのない時間を精一杯生きよう。

538 子供は親や教師の「いう通り」にはならないが、「する通り」になる。
子供に何か伝えるのに言葉はいらない。ただ、誠実に努力して生きていくだけでいい。

539 まず考え、次に感じ、その後に行動する。考えるということは、自分と対話すること。
自分自身に語りかけ、次に行動を決めなさい。

540 「希望は損なわれやすいが、勇気の寿命は長い」希望に胸を膨らませて困難なことに取りかかるのはたやすいが、それをやり遂げるには勇気がいる。

人生の方程式

- 541 人生×仕事の結果＝能力×熱意×考え方
成果＝能力×努力×姿勢
→0～100 →-1 ～+1

542 人生を歩む時は、ドーナツの穴を見るのではなくドーナツを見よ

543 ある選手が伸びるか伸びないかを見分ける時、大きい判断材料となるのは、「うまく行かなかった時に、その原因を人のせいにするか、どうか」である。

544 たとえ理不尽に見える状況にあっても、自分にベクトルを向ければ
もしかしたら、それは成長するチャンスになるかも知れない

545 物事を多面的に見ることが大事である。それには好奇心を持つことが大切である。
好奇心とは、物事や問題の本質や実像をつかもうとする。捉えようとする姿勢である。

リーダーが備えるべき条件・・・「媚びない、キレない、意地を張らない」

546 幸せかどうかは、本人が望む通りに生き変われるかどうか、そして明日が来るのを楽しみにできるかどうかである。

547 どんなに些細に見えることでも、努力したことで何かを変えられたと実感できたら、その人間はひと皮むける。自己変革できる可能性が生まれる。
「理不尽は、その人間を鍛え、成長させるためにある」ということを忘れない。
「その人間を成長させることが目的である」ということを念頭においておく。

- 548 どんなに沢山の事を考え、長時間準備をしたとしても、その場面になって、どう判断するかが大事。人生とは、生き物だから、常に状況は変わるから。
- 549 よく働く人は、本人も知らないうちに、「偶然」や「運の種」をまいている。
- 550 人を育てられない人は、結局自分も育たない。そういう人は、役職の席に座っている資格はない。
- 551 よく会社を革新するというが、何を一番先に革新しなければならないかといえ、それは「社長自身」である。
- 552 「直観的な判断」の後ろには、経営者の骨太な哲学の背景と絶えざる努力が必要なのである。
- 553 学ぶことの大きな意味の一つは、自分なりの歴史観、哲学を持つことにあると思う。言葉を変えて云えば、自分自身の「考え方の原理」を持つということである。
- 554 あなたは蟻になれるか。つまり、蟻のように孜々営々(ししえいえい)と黙々と働くことが必要だ。あなたは、トンボになれるか。トンボは、複眼、さまざまな角度からいろんなものを見ることができる。蟻のようにただ仕事の虜になって与えられた仕事を夢中になってやるだけではもうだめだ。仕事をするのと同時に、ものすごく勉強して幅の広い見方ができなくてはいけない。
- 555 顧客を起点にして、一步先の未来に目を向ける。顧客期待は、一定でなく時間と共に増幅する。こうした視点を持ちながら、自分の頭で考え、仮説を立て答えを導き出す。
- 556 日々の仕事で実際に手を打つのはミクロだが、世の中を見渡すマクロの視点を持たないと全体として打つ手が的を得ていないケースがある。
- 557 フォローの風が吹いている時は、ボールがクラブにある程度当たればボールは余り曲がらず風に乗って飛んで行き歩距離も伸びる。そのため、ある一定以上の力を持っていれば成績に余り差は出ない。一方、アゲインストの風の中では、ボールをきちっとクラブのスイートスポットに当てないと、どこに飛んで行くかわからない。実力が結果にストレートに表れる。日頃から、熱心に練習に取り組み、正しいフォームを身に付け、技術を磨いていけばアゲインストの風の時であっても、その努力が報われて、周りの人たちが出せないような成果を出すことができる。
- 558 過去の経験をなぞるのではなく、ものごとの本質を見抜いて新しいことに挑戦することのできた人のうち、何人かが成功を掴むことができる。
- 559 失敗の数は、チャレンジの数の証拠である。失敗から逃げる人間は、いくら努力しても大成しない。
- 600 ストレスのかかる辛い状況は、自分がタフになるための不可欠な要素である。
- 601 Everything happens for the best. 自分たちの身の上で起こった良いことでなく良くない出来事も、最良のために起こっているものである。人生で起こったすべてのことを素直に受け入れ、その上でベストパフォーマンスを発揮するために、やるべき努力を行っておく。
- 602 表向きの成果がでない努力も、長い目で見れば着実に見えない成果を積み上げている。そして、ある日突然その成果が外に出て花開く。
- 603 常に高い志を持って、自分の限界に挑戦し続けることが確かな自信を生み出す。自分の才能ではなく、要した時間を信じることである。大きな仕事は、小さな準備の総和である。自分の決めた小さな準備をコツコツ丹念にこなして行こう。仕事とは、そういうものの集合体であり、それができた人だけが大きな成果に巡り会える。
- 604 イノベーションは発明ではない。人的資源や物的資源に対し、より大きな富を生み出す新しい能力をもたらすことである。
- 605 優れた商品や技術は質の良いコア技術とそれを育てる者の信念と感動から産まれる。コア技術には「苗木型」と「双葉型」の二つの領域がある。
- この世には、やろうとする者、やろうとしない者、できない者の三種類の人間がいる。

- 606 「やろうとする者」は何でもやり遂げ、「やろうとしない者」は何にでも反対し、「できない者」は何事につけ失敗する。
たとえ才能があっても目標に対する強い意志がなければ何も成し得ない。
- 607 「お勉強」よりも「学習」が重要。(Learning over education)
→他人から教えられた知識を詰め込む「お勉強」ではなく、自分で考えて学ぶことが重要になる。
知識はパソコンやスマホがあれば、インターネットでいくらでも手に入れることができる。
大切なのは、自らの手や頭を使って、実際に経験しながら学ぶことだ。
- 608 始めの一步を踏み出すことは、道の半分を行くのと同じである。何事も最初が肝心。
花は芽で決まる。
- 609 ひもは日々しめ直す。きのう結んだ紐が、今日見れば緩んでいる。
結んだ紐は、日々新たな気持ちで締め直せば、固く縛れてくるものだ。
- 610 ほどほどに。水を器に注ぐのに、九分目では足りないと思っていると一杯になってこぼれてしまう。